

★3. エstabリッシュド・フェロー

佐賀大学では、研究の活性化のため、研究における報奨制度を導入し、研究における評価を可視化することを目的として、佐賀大学エstabリッシュド・フェロー（Established Fellow：卓越研究者）の制度を今年度新たに創設し、6人の研究者を第1期(平成29～31年度)佐賀大学エstabリッシュド・フェローとして選考しました。

選考に当たっては、過去6年間の、科研費採択状況、外部資金獲得額、法人評価における研究業績、博士課程における研究指導学生数などを評価項目とし、これらをポイント化することにより行いました。

本制度を契機に研究者が学術研究に切磋琢磨し、本学の研究の高度化と活性化につながることを期待しています。

★★ エstabリッシュド・フェローとは ★★

個人研究のみならず学際領域研究の組織的研究の中核的な人材。本学における研究等の分野において先駆的・先導的役割を担う。

第1期 佐賀大学エstabリッシュド・フェローの選考理由等

氏 名	所属・職名	選考理由等
き 木 村 晋 也	医学部 教授	外部資金の獲得が著しく、科研費では基盤研究(C)獲得の実績を有するとともに、博士後期課程の学生指導においても多大な貢献をしている。 また、「ABL阻害剤の中止」に関する研究成果は、社会的に注目され、日本経済新聞、読売新聞など多数のメディアに紹介されている。
た 田 中 徹	工学系研究科 教授	科研費の若手研究(B)、基盤研究(B)をそれぞれ一回獲得するとともに、外部資金の獲得も著しく、工学系の若手研究者として活躍が顕著である。 また、「次世代の超高効率・低コスト太陽電池の開発」で得られたZnTeO中間バンド太陽電池について、その実現可能性を明確に示した研究成果で国際的に高い評価を得ている。
み 三 島 伸 雄	工学系研究科 教授	科研費の基盤研究(B)、基盤研究(C)、挑戦的萌芽研究をそれぞれ獲得し、その研究成果は多くの論文として発表している。 また、「歴史的な地方都市における災害時要援護者を視野においた避難ルート計画に関する一連の研究」は防災分野で国際的に高く評価され、日本学術振興会の二国間共同研究に発展している。
す ず 木 章 弘	農学部 教授	科研費の獲得に意欲的に取り組み、基盤研究(B)を一回と挑戦的萌芽研究を三回獲得し、際立った実績を上げている。 また、「マメ科植物の根粒形成に及ぼす光質の影響に関する研究」を国際的に先導し、その成果は国内に留まらず国際的に高く評価される論文となっている。
は 早 川 洋 一	農学部 教授	科研費の基盤研究(A)、基盤研究(B)をそれぞれ一回、挑戦的萌芽研究を三回獲得し、本学における科研費の獲得実績は特筆すべきものがある。 また、ほ乳類の免疫系タンパク質で報告されているITAMモチーフ構造を昆虫のサイトカイン受容体アダプターにおいて発見し、基礎医学分野における生理的機能解析とITAMモチーフの進化・比較研究に多大な寄与が有り、国際的な研究成果となっている。
な 永 田 修 一	海洋エネルギー 研究センター 教授	外部資金の獲得に意欲的に取り組み、科研費においては基盤研究(B)を獲得している。 また、「空気タービンを用いる振動水中型波力発電装置の開発」では世界最高効率の空気タービンを用いた波力発電装置として高く評価され、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の波力発電プロジェクトで採用されている。 さらに、「渦法に基づく粘性流体解析法」の開発に基づく論文は、日本船舶海洋工学会賞(論文賞)、日本造船工業会賞及び日本海事協会賞の3賞を受賞している。



(後列左から) 児玉理事, 寺本理事, 後藤理事, 和田理事

(前列左から) 木村教授, 田中教授, 三島教授, 宮崎学長,
鈴木教授, 早川教授, 永田教授

注) 科研費の獲得実績等, 評価対象期間は平成23年度～28年度の6年間の実績